

阿久志コーチの指導日記2 「障がいを持つ子ども」

1月7日(月) 目標級 うみ8級～2級 指導人数 6人/6人

今日は初めてまさしくんを泣かせてしまった。水に対する恐怖心は残っているとはいえ、水深台の上を歩く練習は彼にとってはそれほど難しいことではないはずなのに、今日はなかなかプールに入ろうとしない。いつまでもぐずぐずしているので少し強引に水に引きずり込んだら泣いてしまった。

まさしくんは生まれつきの障がいで右腕がまったく動かない。でも体にハンディがあるからといって他の子より一歩下がった指導をしていては本人の為にならない。「ぼくは人と違うから先生も甘く見てくれるだろう」という気持ちをうえつけないためにも今日はいつもより厳しく接してみた。

障がいを持つまさしくんを泳げるようにしてあげるにはどうしたらいいだろうか。クロールの形はとれないまでも、まず体を浮かすことができればその後進みを覚え、呼吸を彼なりの方法で身につければ25m泳ぐことも夢ではないはずだ。

でも、今日は後味の悪いレッスンになってしまった。



阿久志

新年早々壁にぶつかったようだね。

スイミングのコーチとして、まさしくんを泳げるようにしてあげたいという気持ちはよくわかるし、間違っていないと思います。

でも、まさしくんのご両親はどういう思いを持っていらっしゃるのでしょうか？障がいを持つ我が子をスイミングに通わせるには大きな不安があったはずですが、それでも通わせる決断をしたのは、私たちへの期待があったからこそではないでしょうか。

私たちは水泳指導のプロですから、子どもたちを早く上達に導くことは大切なことです。でも、お子さんをスイミングに送り出す親御さんたちが求めていることはそれだけではないように思います。ひょっとすると「泳ぎを覚えること」よりも大事している期待があるかもしれせん。

一度、まさしくんのご両親にそのことを伺ってみてはどうですか。そのことで、ちょっと先走っている自分に気づくかもね。

ガンバレ！！応援してるよ。



辺手蘭